

# 巻 頭 言

情報科学研究センター所長

小 淵 洋 一

『城西情報科学研究』は、今回で第 18 巻になります。本研究は、第 11 巻から研究論文についてはレフェリー制度を導入し、新たにスタートしましたが、多くの先生にご投稿いただき、深く感謝しております。

さて、今回は、研究ノート 4 編、報告 4 編の計 8 編、ご投稿いただきましたが、これは 3 年連続の最多投稿件数です。本研究は、第 17 巻まで印刷物にしてきましたが、今回から印刷物にしないで電子化し、城西大学の図書館のホームページからいつでもどこからでもみられるようにしました。前巻では、レフェリー制度を導入して以来はじめて英文の研究論文の投稿が 1 篇ありましたが、今回は残念ながら研究論文のご投稿はありませんでした。是非、これからも研究論文のご投稿をお願いいたします。

ここ何年か、毎回巻頭言で触れていることですが、e-Learning の授業展開の推進はいまでも城西大学において大きな課題の一つであります。その際、問題となる教材作成の負担を軽減するとともに、授業運営の統一性と利便性を図れるようにするために、情報科学研究センターでは SCNL 2005 においてハード・ソフト面の初期的な環境整備を行いました。それにともない、ソフト面では教材作成と教材提示を支援するコースナビの利用が進むとともに、教材作成をサポートする常駐スタッフの赤嶺多恵子氏も年毎に忙しく、内容の濃いものになっています。

今年度（2007 年 4 月～2008 年 2 月）のコースナビの教員利用状況をみますと、52 名の先生が利用し、学部別では理学部が最も多く、以下薬学部、現代政策学部、経済学部、情報センター、短大、語学教育センターの順になっています。一方、学生の利用状況をみますと、最も経済学部が多く、以下現代政策学部、経営学部、理学部、薬学部、短大の順になっています。現在は、教材資料配布として利用される場合が圧倒的に多くなっていますが、今後は本格的な e-Learning として活用していただければと思っています。情報科学研究センターでは、教材作成をサポートする講習会を毎月 1 回のペースで実施しておりますので、それを利用されるか、常駐スタッフにご相談ください。

『城西情報科学研究』は、今回から電子化しましたので、図書館のホームページからご利用いただくとともに、次回のご投稿をお待ちしております。

情報科学研究センターでは、「SCNL 2005」に続く次期情報教育システムの検討に入っておりますので、ご指導、ご協力のほどお願い申し上げます。